

科目名 植物資源保全学特論 (2単位)

担当者氏名 寺澤和彦、中村隆俊

◆学習・教育目標

現在、身近な自然が急速に失われつつあり、わが国においても生物多様性基本法が成立するなど、野生生物の保全への関心が高まっている。本講義では、湿原、海浜植生、森林群落などの自然環境を対象として、植物生態学、植生管理学、森林保全学などの視点から、保全に関する実例を交えて自然環境の保護と保全に関する知識を深める。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

光環境と植物の生態 森林生態系の特性	陸域生態系 持続可能な森林管理	植生発達と養分動態 自然環境保全法	トレードオフ 生物多様性基本法
-----------------------	--------------------	----------------------	--------------------

◆授業の進行等について（単位制度に基づく授業の進行予定・内容）

回数	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1-5回	光環境と植物の生態、陸域の生態系、土壌・植生の発達と養分動態 (担当 中村 隆俊)	自然環境の保全や再生には、まず対象となる生態系を十分に理解するプロセスが極めて重要である。従って、植生の保護や保全には、植物生態学の基本的知識が不可欠である。本講義では、植物生態学の基礎について学習し、生態系を理解するためのアプローチについて、植物群落・植生保護の視点から考察する。	自然環境の保全や再生に向けた植物生態系のの基本的知識と理解を深める。
6-10回	森林群落の組成と構造、遷移とその機構、森林の現存量と養分循環、森林と野生生物との相互関係、生物多様性保全と森林施業 (担当 寺澤 和彦)	森林群落の構造・種組成等と森林動態のメカニズムについての理解を深めるとともに、森林と野生生物との相互関係、生物多様性保全と森林施業について解説する。	森林と人との持続可能な関係の構築に向けた基礎知識の養成と、生物多様性保全のための森林施業に関する理解を深める。
11-15回	生物多様性基本法、環境基本法、自然環境保全法等 (担当 寺澤 和彦)	自然環境を保全するためには、健全な生態系を維持・回復し、自然と人間との共生を確保することが必要である。そこで、自然環境を適切に保全するとともに、人が自然に学び、自然の恵みを感じられるような自然環境保全制度の特徴を解説する。	自然環境の保全に関する法律、とくに国内環境関連法を対象に講義する。自然環境を保全するための法的な仕組みなどをとりあげ、現代環境関連法の具体的な姿を明らかにする。

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

プリントを配布

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト）

出席とレポートで評価する。

◆その他受講上の注意事項

配布されたプリントにあらかじめ目を通しておく。